

## 平成30年度第4回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 平成31年2月26日（火）
- ◎開催日時 平成31年3月19日（火） 午後3時30分～5時8分
- ◎場所 伊那市役所 庁議室
- ◎出席者 白鳥市長、笠原教育長、北原教育長職務代理者、宮脇教育委員、田畑教育委員、原田教育委員
- ◎欠席者 なし
- ◎出席職員 馬場教育次長、吉田学校教育課長、小松生涯学習課長、捧文化振興課長、宮下スポーツ振興課長、北澤指導主事、山崎教育総務係長
- ◎出席関係者 なし

### 1 開 会

馬場教育次長

こんにちは。ご案内した時間になりましたので、今年度第4回目の伊那市総合教育会議を開催してまいりたいと思います。初めに市長からごあいさつをお願いいたします。

### 2 市長あいさつ

白鳥市長

こんにちは。大分梅が咲いて市役所の周りの柳の芽も動き出したかなあという感じであります。今、卒業式がほぼ終了して、これから入学式ということで、新しい年度の変わり目になってくるわけですが、今週末は春の高校伊那駅伝ということで、男子42回、女子35回という大会であります。全国から選手をはじめいろんなみなさんが見えますので、伊那のことをしっかりお伝えしながら全国に発信していきたいと思います。今日は第4回ということで、今年度最後になります。いくつかの項目がございます。振り返って確認してみるもの、過去の取組と今後の活用方法等がございますので、闊達なご議論をお願いいたします。

馬場教育次長

ありがとうございました。続いて、教育長からお願いいたします。

### 3 教育長あいさつ

笠原教育長

こんにちは。今市長からお話がありましたけれど、年度の変わり目、今年度取り組んできました「暮らしのなかの食」また「地名調査」に関わることから、ICT教育、そして、これから先大きな取り組みになります外国語教育、さらに来年度具体的には大きな取組になるのかなと思っております、中学校における部活動のあり方検討等内容は多岐に渡るわけですけれども、市長のお考えをお聞きし、また、教育委員のみなさまからもお考え、思いなどをお聞かせいただきながら、市の教育行政の推進につながる機会にしていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

馬場教育次長

それでは、協議事項に入りたいと思います。ここからは市長の進行でお願いいたします。

### 4 協議事項

#### (1) 暮らしのなかの食の検証と総括

- ・活動の歩みと学校での取組の検証
- ・今後、どのような方向に進めていくか。

白鳥市長

まず最初に「暮らしの中の食」の検証と総括、今後どうした方向に進めていくのかという考えをお出しいただければと思います。最初に事務局の方から概要を説明してください。

資料1に基づき、吉田学校教育課長説明

白鳥市長

そもそも基本となる考えというのは、最初に説明してもらった「暮らしのなかの食」という環の載っているものですが、その後、数年間の中でいろいろな取組をしてきました。検証をして、当初の目的に対してどういう状況にあるのか検証をしようということと、今後さらに修正を加えていくのか、どのような方向に向かっていくのかということについて、ご意見をいただきたいと思います。

白鳥市長

「暮らしのなかの食」については、いろんな意見をまとめてあったよね。

吉田学校教育課長

はい。

白鳥市長

その中では、特段やめた方がいいとか、修正を加えた方がいいとかいう意見はなかったような気がしたけれど。

吉田学校教育課長

各学校からは、子どもたち、先生も含めてなんですけれど、農業自体、農家であっても実体験がないという状況の中で、食につながっていく農業というものの価値とか優位さを一緒に学んで、実感できたという評価が多く为学校から寄せられているところでもあります。

白鳥市長

特に長谷中学校あたりは、さらに進んで6次産業化みたいところまで行って、それが地域の活性化の核になっているということがありますので、振り返りと今後の方向とか検証も含めてご意見をいただければと思います。

学校現場、先生たちの負担とか、子どもたちもだけれど、先生方も含めて意見をいただければと思います。

原田委員

今言われた長谷中のことなんですけれど、今後の動きとしては、今の中学1年生の子どもたちは今の活動をやりたいということであったり、2年生については検討中といことなんです、校長先生が中心になって引っ張ってきたというプロジェクトだと思うんですが、それが今後子どもたちがこれからもやりたいとなったときに、校長先生も変わられてどんなふうになっていくのかなというのが心配というか、ここまで作ってきて子どもたちも「自分たちもやるんだ。」と言っているんだけど、校長先生も変わってしまうし、教頭先生はそのままおられるんですが、教育委員会としてはどのように考えていくのかと思うんですけれど。

白鳥市長

私も同じ見方をしていて、今の仕事量はかなり膨らんでいると思うんですよね。これをさらに広げるとすると子どもたちの本来のところから超えてしまう

という気がするので、活動を引き継いでもらって、そうは言っても学校と生徒と地域と人のつながりがずっとできてきているので、そこは残しつつ別なところにバトンタッチしてやっていくというのがいいかなと思うんですけど、どうでしょうか。

今、長谷中の話がひとつの事例として出たんですけど、このままいくと中学生の仕事が唐辛子づくりになっていってしまうと思うんですよね。

田畑委員

深く校長先生を主軸に子どもたちの気持ちもひとつになって、見学させてもらった時に、印象的だったのが、先生が「まずは景観だ。」と、学校の窓から見た時の景観を私たちはどう考えるのかというところから、「何色が欲しい。」と、「じゃあ、赤なら。」と景観の中から自分たちが集まったというところから、あの場所を荒らさないことが大事なんだということを含めて、地域とつながってきていて、やはり年とともに入ってくる先生たちの熱がどこに向かうかわ変わってくる中で、これは私の個人的な考えなんですけど、例えば、クラブ活動、子どもたちが「3年間活動したいんだ、自分の余暇の時間を使って、唐辛子ファクトリーっていうクラブを作りたい。」っていう思いがあれば、そこは子どもたちの自主的な活動として地域とつながるクラブ活動として、後押ししてあげるのもいいと思うし、子どもたちの選択の中でどう残すかというのは、教育委員会で考えることというよりは、発信している地域の子どもたち、もしくは先生たちが、どういう思いでつないでいくのか議論をして、目指してもらう方が自然発生的で、仮にそれが途中で途絶えたとしても、その子たちが決断したこととして落としどころとしてはいいのではないかなという気がします。

白鳥市長

ほかどうでしょうか。

北原教育長職務代理者

今、具体的にどこまで進もうとしているか把握していませんけど、長谷中学校では「長谷の縁側」がありますよね。それから、これをほかの学校に発展させて考えると、各学校とも信州型コミュニティ・スクールがあつて、もともと信州型コミュニティ・スクールっていうのは、校長先生が変わっても先生が変わっても、学校で変わらない営みができるようにということが大事に考えられていることなので、今回も学校の中に作業所、また、地域の人が入っていただくということを考えているということをお聞きしていますので、その辺をうまく核にして地域の方々にお力を出していただく部分はお願いをして、子どもたちの学習

活動が削がれてしまうようなことがあってはいけませんので、そうしたことを大局的に見ながら、ぜひその辺をうまく活かしていくとほかの学校でもいろいろな取組をやっているとき、もちろんほかの学校も地域の人がかかわりながらやっているわけですが、モデルになるのではないかと思います。

白鳥市長

そうですね。始まって数年なので、校長先生が変わって、「じゃあやめましょう。」という話ではないと思うんですね。負荷の部分をもどの程度までにして、民のところでどの程度までかかわりを持てていけるか、そこら辺を明確にしていけばいいのかなあという気がしていて、実はあれが非常に人気になっていますよね。これで量が足りないとか、作るときにどうするのって作業があるんだけど、そこで手間をとられてしまうと困るので、そこら辺を上手に民間に移行しつつ、縁側だとか、あるいは、子どもたちは別の方法でラー油じゃないものを考えつくかもしれないし、唐辛子を中心にした地域活動が学校として流れていくんだけど、上手に分業のところを考えていくべきかなという気がするんですよね。

白鳥市長

急用で10分ほど中座をさせていただきますので、教育長進めてください。

笠原教育長

今、いい形で方向に近いものが出てきているかなあと思いながらお聞きしていましたが、続けて重ねてご発言いただけるものがあればお願いします。

田畑委員

ひとつ心配なのが、本当に唐辛子を作りたい先生が来るのかということで、極端なことを言うと、自分が赴任した時にやりたいことが出てくるとか、子どもたち自体が違うことをやりたいというふうになったときに、教育現場の中に選択の幅があるべきだと思うので、そこはどういう結末を描こうか、現場で学んでいる子どもたちが、地域の大人とかかわって出す結論を尊重していつてあげないと、なんとなく「あそこの学校に行くとそういう活動があるらしいよ。それをやらされる。」という本末転倒なのかなという気がするということが危惧としてあるので、確かに活動として素晴らしいし、地域のみなさんも乗っているし、子どもたちもやろうという気持ちがあるので、今の段階では尊重していくんだけど、市長の言うように民間という考え方もあるでしょうし、違う展開の中で新

しいことをやりたいという子どもたちが出てきた時に、うちはこれがあるからできないというのは違うと思います。

伊那小の総合学習も毎年選択に自由があるじゃないですか、学年学年でその時にやろうとすることを立ち上げていくんだけど、最終的には、一から自分たちが何をやるか考えていく、去年、先輩たちがこれをやっているので踏襲してこれをやろうよということになっていけば、そこは継続するんだけど、どういうつながりの中で その子たちに課されるというのが大事なのかなあという思いもあります。

笠原教育長

一番大事なものは多分そこなんでしょうね。

北原教育長職務代理者

そういう意味では、今中尾歌舞伎に取り組んでいるのは2年生、だから2年生は唐辛子ではないですね。基本的な選択がそういう意味ではあって、もうひとつは地域の核としての学校、これをどう進めていくのかということ、子どもたちの選択は一番最優先してあるべきだというのはそのとおりですね。

笠原教育長

ですから、地域の方たちが多く学校の取組に関わって支援をしてくださるような絵ができてきている、それがどういうふうに進んでいこうとするのかというところを周りが大事に考えていくということなんじゃないかな。あれだけ見事に真っ赤な畑ができあがると、そこにどうしてもとられてしまうんですけど、何しろ唐辛子の苗を学校に持って行ったのは私なものですから、ちょっとそこのところは責任を感じているところです。

宮脇委員さん、どうぞ。

宮脇委員

多分、こういう考え方をしながら見守っていけば、とりあえずは突っ走っていいと思うんですね。それをこういうスタンスで見守っていて、状況が変わってきた時に変えられればいい。今度の新しい校長先生も予定どおりの方が来れば、きちんとできる方なので、とりあえずはこの状況で行くんだらうなどは思いますよね。こういうスタンスで見守っていく状況があれば問題ないという気がします。とりあえず今すぐ変えようということではないので、地域の方を巻き込んでこの形でやって行くのがいいと思います。どうなっていくかはこれから先のことですね。とりあえず1年生がやりたいと言っているわけですから。

#### 笠原教育長

全体のキャパがあるわけですので、そこら辺をうまくこちらで調整してくれるように期待するところかなあとと思うんですけど、ありがとうございます。ちょっと長谷中から離れて、営みとしての「暮らしのなかの食」を見たときに、どうでしょうか。

#### 宮脇委員

各学校に聞けば、概ね「いい活動だ。」という返事が返ってくるんですが、多分、現場の先生方の負担というのは間違いなくあって、多分これからいろいろ変わって行って、英語学習だとか入ってきた中で、先生たちがどこまで関わってくれる気持ちになるのかを非常に心配しているところなんですけれど、例えば、学年を区切って2年と5年の時はこういう活動をしましょうとか、全学年でいっぺんに全部やると大変なので、多少そういうことをしながら、少なくとも栽培活動はするけれど、毎年でなくてもいいのかな、そういうやり方もあるのかなという感じがしているところです。多分、先生方ずっとこれをやっていけば大変だなという気はしています。

#### 田畑委員

ちょっと極端な例で、農地ないからプランターでミニトマトを育てましたとか、農場がないので収穫だけやりましたとか、どうしてもやれと言われれば結果を求めるので、やらないよりはいいと思うんですけど、中学校でどんなものができるのか、小学校でどんなものができるのか、検証してきているので、整理すべきかなという気がします。

#### 原田委員

先生方が大変だ、大変だというのはあるんですけど、どういうところが一番大変なのかということがわからないんですね。ある機会に先生に「なにしろ学校から外に出る野外の活動の時に2週間くらい前までに書類を上げる。」と、そんなことをしていたら、予定が狂うこともあるだろうし、できないかもしれないのに、いちいちそういう縛りばかりが多いということをお聞きしたんですけど。私はわからないところではあるんですが、そういうことによって危険度が減るとか、そういう意図があってそういうことになっているんですか。

#### 笠原教育長

例えば、交通機関を使ってどこか出るとかですね、あるいはほかの学校と一緒に

に活動するとかいう格好で出るものについては、今のような手続きを一定の時間的なゆとりを持ってしていただくようにしている。2週間前に出ないとしちゃいけませんよとか、そういうような運用にはなっていないくて、子どもたちの取組を応援していくような、学校の創意とか工夫が生きるようなそういう方向で支援をしていこうと、そういうことでやっているものだと理解していただいた方がいいと思います。ですので、自分たちが作っている農園へ学級活動の時間を使って出ましようというようなものは、むしろお天気と相談してもらって、子どもたちが「今日は行けたらいいな。」と思ったタイミングを捕まえてやっていただくことが大事なんだろうなと思うんです。

吉田学校教育課長

学校の農園の活動について、校外活動届をいただくことは求めています。

田畑委員

年齢に応じて「暮らしのなかの食」のカリキュラムをどのように学ぶかということ、みんながみんな持ち上げて発展しようという形でなくても、置かれた環境で、畑のある学校、畑のない学校で「暮らしのなかの食」を考えてもらえれば、求めているものに近づくのではないかと思います。長くやってきているので学校を取り巻く地域環境だとか、引継ぎで整理されていると思うので、その辺をまとめてこられた先生がどんな選択肢があってどんな教育者がいるのかを信州型コミュニティ・スクールの仕組のなかで理解してもらって、スムーズに「さあ何をやろうか。」というところに立って、原田委員言われたように、書類とか届け出の作業がクリアで、動いたことが実際の教育につながるような時間の削減ができるような形になるといいのかなあとと思います。

笠原教育長

それぞれの学校が積み上げてきている取組を学校の中で評価していただいて、次の取組を作っていくっていただくことが大事なので、長谷中についても、これまでの明確な取組をどういう形で消化していこうかということ、長谷中のなかの検討を見守るような方向でかかわっていこうじゃないかということになりました。

白鳥市長

今後の方向についてもそうして見守りながら手を差し伸べたりして、次につながっていくような形を作っていくということですね。

北原教育長職務代理者

学校の規模や地域によってかなり違いがありますので、今までの積み上げを大事にしながら、大体何学年ではこれを作っていくといいよと考える学校もあるでしょうし、高遠小学校で卒業した学年のように、ずっと小麦を作って最後はお饅頭を作るというところもありますし、高遠北小学校のように低学年は豆を作って味噌にしたり、高学年はそばを作ったり、それぞれの学校の特色があるので、それを核にしながらそれぞれの学校でも、豆を作っているんだけど、うちの学年はこんにゃくを作るんだとかありますので、その辺のところは子どもたちの気持ちを大事にしていくキャパというのがあっていいのではないかと思います。

白鳥市長

この間もテレビ東京で伊那の特集をしていて、その中で伊那小が出てきて、総合学習でヤギを育てるにしても、算数の要素を取り込んで、どのくらいの餌が必要なのか、「暮らしのなかの食」のなかでも地理だとか、歴史だとか、算数をきちんと入れていくということは、もう一度確認をして進めてもらうということで、お願いしたいと思います。

方向については、そうしたことで進めるということで確認しましたので、次の古い地名調査の活用ということですが、お手元に何冊かありますので、事務局から説明をお願いします。

## (2) 古い地名調査の活用

- ・地域のつながり、活用方法

資料2に基づき、小松生涯学習課長説明

白鳥市長

今お手元に配った資料なんですが、日本地名研究所という機関がありまして、そちらの所長さんが伊那の取組を前々から注目していて、「民間レベルでこうした調査をしているのは、おそらく日本でも聞いたことがない。研究者がやることはあるにしても、こうした取組が民間発想でできているということは非常にすごい。」ということで、ずっと追いかけてきました。その取組についてどうしても文章にしてくれと頼まれたので、短い文章ですけれど、至るまでということで、書いたのがこれです。これを別のところでも使いたいということがありましたので、伊那谷の地名研究所というところもありますので、これも後で読んでおいていただきたいと思います。

地名調査、これでおしまいということよりも活用を考えていかなければいけないということで、その時にどうしたらいいかということも意見をいただきたいと思います。ひとつの形として防災マップに合わせたときにどうなのかということで、地名から自分たちの住んでいるところの過去の歴史、災害を紐解いていくということもあろうかと思いますが、地域の地名を確認したことで、例えばカントリーウォークとか、地域の新しい人、大人、子ども、一緒になって地域内を歩きながら楽しみながら、地名を確認するというようなことも公民館活動としてできるのかなあと考えつつ、せっかくここまで素晴らしい、ほかに類のない成果を生み出しましたので、活用について、アイデアとか、ご意見があればいただきたいと思います。

白鳥市長

県の災害に関わる地名ってこんなにあるんだね。押し出しなんてまさにそうなんですね。

北原教育長職務代理者

今の押し出しなんですけど、私の地区にも押し出しがあるんですよ。この地名調査をやっていただくまで、知らなかったんですけど、そこに明治28年に災害があって、和田見世という家があったんだけど流された。遡ると江戸時代には西向庵という庵があったんだけどそれが流されて、同じところで起きている。これが昭和57年、58年に夏、豪雨があったんですけど、その時に沢がどっと荒れて、藤沢川をせき止めるような形で水を外へ押し出した。まさに押し出しだと思います。改めて実感させられて、私たちは地区で実感で、地形も変わって来ているし道も変わって来ているんだけど、災害の時の避難、それからこういうことを学校で取り上げるといいかなあと実感しましたね。

白鳥市長

今、学校での子どもたちへの災害学習の話が出たので、それもひとつですね。ほかどうでしょうか。感想でもいいですし。

田畑委員

子どもたちが触れる機会では、各地区で遠足を企画する公民館活動があったり、行き場所に困っている公民館があるとしたら、この地域の古い地名をたどる遠足みたいな形で、話をしてくれる人が来てくれて、みんなで回るような企画ができれば非常にいいのかなと思います。

白鳥市長

ガイドは、これを作った人たちだよ。自分たちで作ったんだから。

小松生涯学習課長

実際に、西春近なんかはやっていますね。

白鳥市長

ほかにはどうでしょうか。

宮脇委員

西町でも春にウォークラリーなんかをやっているの、その時に古い地名をたどりながらやっていくともっと面白い。今、鶯洞と言われているところは、昔は蒸洞と言われていて、確かにそれを聞いて行ってみると、蒸し蒸ししたじめじめしたところで昔の人はこれを蒸洞と言ったんだなと実感するので、そういうたどり方も面白いかなと思います。

白鳥市長

それで、地形を地名と結び付けて覚えるとかね。これって、教育委員会で上手に使って、地区で行っている遠足だとか、そうした時に活用してくれと、ガイドさんについては、作った人がいるので、みなさんにガイドしてもらえればかなり面白いことができるんじゃないか。

小松生涯学習課長

実際にやっている公民館とかがあります。

白鳥市長

ほかにはどうでしょうか。今、そこにまとめてある本があるんだけど、最終的にはどういうふうにするんだっけ、ハードカバーにするわけじゃないよね。

小松生涯学習課長

ハードカバーにはしません。ただ、市長が以前伊那小に行って話した、物語の部分は1冊にまとめていますけれど、今後市史をまとめる中では、何かひとつ特定のものの中には、何何編という中には活用できるようにしていきます。

白鳥市長

そうですね、伊那市の民話、伝承、これって今までの伊那市史とか、高遠、長谷の市史にないようなものが出てくると思うので、大事だよな。

では、この古い地名調査についていくつか出ましたけれど、防災面についてのアプローチは非常に大事だと思いますので、各地区でも活用してもらい、さらには、取組の始まっている伊那市史のなかにもこれを取り込んでいくということで進めたいと思います。

何か、もう少し面白そうなことができそうな気がするんだけどないかなあ。  
さっきの防災に関する地名は、長野県のものだよな。

小松生涯学習課長

そうです。

白鳥市長

伊那市版も同じことか。また何か思いついたら出してください。

では、次のICT機器の活用と効果についてに移りたいと思います。整備状況について、効果の検証とプログラミング学習の取組について、説明をしてください。

### (3) ICT機器の活用と効果について

- ・今年度の整備状況
- ・活用の状況とその効果の検証
- ・プログラミング学習の取組

資料No. 3に基づき、吉田学校教育課長説明

白鳥市長

今、整備状況、それからプログラミング、そのほか説明してもらいましたが、全部ひっくるめて、ICTのことについて、ご質問でもご意見でもあればお願いしたいと思います。

北原教育長職務代理者

資料1ですけれども、29年と30年で母集団は同じですか、違いますか。ということは、整備状況が違っている、その違いが見えているのかどうかということです。

吉田学校教育課長

整備されていない学校は除いてありますので、29と30は若干異なっています。30年度の方が増えている、まったく同じ母集団ではないので、そうした比較は難しいかなと思います。

北原教育長職務代理者

では、30年度は、29年度昨年入れた学校も入っている。

吉田学校教育課長

入っていないです。

北原教育長職務代理者

進行状況が違うので、この資料づくりは難しいかなと思います。

吉田学校教育課長

それを踏まえて、来年度は全学校に入りますので、当初から全学校で調査をしていく予定です。

北原教育長職務代理者

わかりました。

白鳥市長

教育委員のみなさんは現場を見に行きましたか。

原田委員

行きましたが、最近は行っていません。去年西箕輪中学校に行きました。

白鳥市長

今、授業で積極的に使っているんだよね。

吉田学校教育課長

はい。

白鳥市長

今までのやり方とICT機器を使ったやり方と成績がよもや下がるということはないと思うんだけど、上がるということがあるかどうか。それを期待しているんだよね。

宮脇委員

そうなってほしいですね。

白鳥市長

先生たちの反応はどうか。

吉田学校教育課長

一番は使い慣れていないということで、こちらから行って指導するんですけど、支援したり、お手伝いするのに頼られたり、あるいは、先生方も支援が薄かったりすると、遠ざかってしまったりするので、もう少し計画的に支援していきたいということで、来年度地域おこし協力隊を含めて体制を整備していく必要があるかなと考えています。

白鳥市長

支援の計画だよ。カリキュラムであるとか、レベルABCであれば、初期の人にはこういう指導をして、ここまで行ったら次はこういう指導をしてとか、それを経過したらA先生はCクラスまで行っていますよとか、そういうのってわかりやすく確認していった方がいいかもしれないね。支援員の人が出て、いつまでもその人に頼っていれば、初級のままだよね。

田畑委員

ひとつ気になるのは、数字の母体が違うので、改めて自分の考えが伝わりやすいのは、数字的なマジックがあったりするので、わからないんですけど、私も仕事で使うので、そうなりがちで気を付けているんですけど、システムで自分が作ったもので、計画的に授業を進めようとする、子どもというよりも単純にこのシートを見せなきゃいけない、あと、スライドシートを何枚説明するということが気持ちが行き過ぎると子どもが議論して悩んでいるところへ、結論を出しちゃうということになると、今までだったら悩んでいる「僕の意見はこうだと思う、ああだと思う。」というのが、ぎゅっと短縮されて、答がこれだと示されて、自分の意見が言えなかったということが起きがちなので、熟練した先生であればあるほど、システムと一緒にいるというふうにならないように、子どもと寄り添ってもらって、あくまでこっちは道具だと使いこなしていけばいくほど、先生たちが機械的になっていってはいけなくて、ベテランの先生ほど注意してもらうことが必要になるかなと思います。実態はわからないので、何とも言えませんが、自分の意見を言える時間が短くなるということは気になります。

白鳥市長

I C T機器を入れれば、I C T教育が始まったということにならないので、I C T機器を入れてきちんと授業が回り始めて、初めてI C T教育が始まるということなので、授業が確実に回るかどうかという検証だよ。そこをやっていかないとまずいと思うよね。

笠原教育長

今市長おっしゃるとおりだと私も思います。その意味で今日、具体的に長谷小学校の6年生のプログラミングの授業の資料を入れてくれたんですが、この授業が私も影響される本当に素晴らしい授業で、授業の作りがしっかりしていて、子どもたちの学びを教員がしっかり見ているんですね、作っているんです。それをI C T機器を使いながら、見事に子どもたちの間を作り出している。ですので、ああ、こういう骨の太い授業が登場してくれて、ますます可能性が広がるなあと、後で、写真が載っていますけれど、吉田先生なんですけれど、ああ、こういうふうにして機器をうまく子どもの学びに活かして、こういう授業ができてくれて、ひとつも二つもステージが上がっていくなあとというふうに思ったんですね。吉田さんの写真の後ろ側の拡大して映している、その右側に黒板があるんですけれど、そこが非常に良くて、それは載っていないですけれど、見事に使い切った、こういう言い方をすると子どもたちには申し訳ないんですけれど、2人1組になって授業をしているんですけれど、追究が止まらないんですね。こぼれていく子がない。そういう素晴らしい場面で、私もこの長谷小の公開で大いに可能性を感じました。

白鳥市長

はい、先生方の意見を聞いていますか。

こんな面倒くさいことをやらなちゃいけないのかとか。

吉田学校教育課長

ここには直接は言えないですけれども、一番言われていて、面倒くさいという背景にあったものは、速度の遅さと使い勝手の無線L A Nが十分整備できていなかったということがあるので、整備されているところからはそういう話が聞こえてこないのです、やはり課題が明確になって解消されてくれば、変わってくると思います。

白鳥市長

速度はいいんだけど、解消されれば、先生たちもこれはいいぞとなるのかな。

吉田学校教育課長

そういうふうにしていきたいと思います。

白鳥市長

これ、どこの学校も同じだと思うんだよね。入れたのはいいけど、使いこなしているかの検証ができていなくて、パソコンに向かっていると仕事をしているように見えちゃう、実は全然手が動いていなくても、一日中ぼーっとしていても仕事をしているように見えちゃう、そうならないように機器を入れて、習熟度のレベルを上げることをやっていってもらわないといけない。そこら辺の今後の取組が大事なかもしれないね。どうやって熟度を上げて、それを維持して授業をスムーズに、考える力を子どもたちに与えていけるか。ほかにあればどうですか。

宮脇委員

先生方のなかの意見の学習問題の準備時間が短縮できるようになったというところの「そう思う」という意見が増えているので、そうやって時間の短縮ができれば、その時間を子どもたちと向き合う時間に回せるようになるので、それが本来の導入の意義だと思うので、ぜひこうしたものを有意義に使ってもらって、時間を短縮してもらって、重要な時間を子どもたちと向き合ってもらいたいと思います。

白鳥市長

働き方改革につながってくるよね。

田畑委員

みんなが共有して使っているようなものを、作った人の名前が残って、あの先生の作ったものをつていうふうになっていくと、いちいち自分たちで組み立てなくても、こんな動きをすればわかり易かったというものを残していってもらおうといいんじゃないかと思います。

白鳥市長

それはできるんだよね。

田畑委員

はい、できます。

白鳥市長

支援者が数人いるので、みなさんとよく打ち合わせをして、全体のレベルをどういう状態まで持ち上げていくのかということをよく話をしてもらわないと、入れたんだけど、あまり使っていませんよというふうになってはまずい。

白鳥市長

では、とりあえず今日の議題については以上であります。全体を通じてご意見とか課題があれば、お願いをいたします。

全委員（なし）

5 閉 会

馬場教育次長

長い時間、ご意見等をいただきありがとうございました。ご意見等を今後の事業に活かしていきたいと思えます。本日は大変ありがとうございました。